※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3014

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「書Ⅰ」　（教育図書）						
副教材等	指導教員の手本						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・いわゆる「お習字」の学習は、中学校では国語の書写として学びました。それを発展させ、高等学校では、芸術科の選択書道として学びます。
・楷書の「永字八法」から入り、中国や日本の古典の臨書を通して、行書、草書、隷書、篆書の字体の変遷を学んで行くことにします。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について理解し、書の美しさと表現効果を味わい、感じ取れ、漢字の書体の変遷等が理解できる。
評価方法	芸術としての書に取り組む態度の熱心さを受講態度の観察で評価します。授業への出席率も含む。	目的や用途に則した形式、意図に基づく表現を構想し、工夫できているかを提出作品で評価します。	用具・用材の特徴を理解し、字形の構成や全体の構成が工夫されているかを提出作品で評価します。	古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法が反映されているかを提出作品で評価します。

※令和３年度以前入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期前半期		永字八法 漢字かな交じりの書の練習 楷書の練習	○	○	○	○	a:書について、興味を持って意欲的に取り組めてる。 b:基本的な用筆・運筆ができている。 c:字形や全体の構成が工夫されている。 d:基本的な点画・線質が理解できている。	受講態度の観察 提出作品を採点
前期後半期		虞世南(楷書)の臨書 欧陽詢(楷書)の臨書 顔真卿(楷書)の臨書 褚遂良(楷書)の臨書	○	○	○	○	a:楷書の表現方法や基本的な知識・用筆方法を理解し、意欲的に取り組めている。 b:古典の特徴的な用筆・運筆を試みている。 c:字形や全体の構成が工夫されている。 d:古典の特徴を捉えている。	受講態度の観察 提出作品を採点
後期前半期		王羲之(行書)の臨書 「集王聖教序」の臨書 「蘭亭序」の臨書	○	○	○	○	a:楷書と行書の表現の違いや基本的な知識・用筆方法について理解し、意欲的に取り組めている。 b:古典の特徴的な用筆・運筆を試みている。 c:字形や全体の構成が工夫されている。 d:古典の特徴を捉えている。	受講態度の観察 提出作品を採点

※令和３年度以前入学生用

後期後半期		空海「風信帖」の臨書 智永(草書)の臨書 隷書の臨書 篆書の臨書	○	○	○	○	a:各書体に興味を持ち、表現の違いや基本的な知識・用筆方法について理解し、意欲的に取り組めている。 b:古典の特徴的な用筆・運筆を試みている。 c:字形や全体の構成が工夫されている。 d:古典の特徴を捉えている。	受講態度の観察 提出作品を採点
		卒業創作 半切1／4に、「卒業にあたって」のメッセージを書く。	○	○	○	○	a:作品の構想、書体の選定、完成までの創作活動について興味・関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組めている。 b:自分なりの用筆・運筆で表現している。 c:字形や全体の構成が工夫されている。 d:自分なりの表現ができている。	受講態度の観察 提出作品を採点

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。